

第2回 小金井市産業振興プラン策定委員会 議事録

日時 令和7年8月20日（水）午後6時00分～午後8時00分

場所 婦人会館2階集会室AB

出席委員 10名

委員長 中庭光彦 委員
副委員長 西川亮 委員
委員 佐藤剛 委員
中根里美 委員
山口清 委員
鴨下敏明 委員
渡邊恭秀 委員
今井哲一郎 委員
益田智史 委員
渡邊雅毅 委員

欠席委員 1名

委員 橋本佳菜美 委員

事務局 経済課長 島田泰吉

経済課産業振興係長 田中達也

株式会社国際開発コンサルタンツ 氏原茂将

株式会社国際開発コンサルタンツ 伊藤彩夏

傍聴者 0人

議事

1. 開会（午後 6 時 00 分）

2. 議題

（1）小金井市に関する統計整理について

事務局が資料 1 を用いて、小金井市に関する統計整理の説明を行った。

渡邊（恭）委員 人口推移について、外国人は含まれているのか。

事務局 外国人も含まれている。

今井委員 商業・工業基礎調査について、武蔵小金井駅は駅の南北で調査を行っているが、東小金井駅はなぜ南北で調査しなかったのか。

事務局 確認する。

山口委員 近隣市と比べて、人口推移や高齢化率などの特徴はあるか。

渡邊（雅）委員 沿線によって差があると思う。

事務局 立川市より西側の青梅市や西武線沿線、武蔵村山市等では人口減少が始まっている。

中庭委員長 比較的に早い段階で再開発された地域は人口減少が始まっており、人口密度に着目することが重要である。多摩地域のなかでの小金井市は条件が良いと思う。

（2）新プランに係る具体的な取組の検討について

各委員が新プランに係る具体的な取組について意見を出し合い、議論をした。

中庭委員長 「働きやすさ」を考えることは「暮らしやすいさ」を考えることにつながるので、市民委員の方々は、自分が小金井市で働くことを想像し、働きやすい環境が提供されているのか、という観点でご意見いただきたい。

渡邊（雅）委員 植木農家は現在、市場が縮小しているため厳しい状況にある。公園を活用し、植えやすい小さな植木の販売会を実施したい。

地元の農作物を給食に提供しているのは良い取組だが、単価が上がると良い。農地が小規模で、収益を上げにくいで農機具の補助を手厚くしていただきたい。合わせて、認定農業者などのやる気のある農業者に重点化することも有効だと思う。

また、農家が所有する井戸が災害対策に指定されているが、井戸の水質検査の実施も考えられる。PFAS が検出されるかもしれないが、個人にゆだねるのではなく、行政が行うべきと考える。

引っ越しの際などに農地に自転車等が放棄されることがあるが、それらのゴミの処分費用は農業者が負担しているため、解決策があると良い。養蜂の取組を進めており、小金井市のブランドとして打ち出せるものがあると面白いと思う。

中庭委員長 養蜂に取組んでいる人はどれほどか。

渡邊（雅）委員 現在活動しているのは 2 軒で、来年さらに 1 軒が始める予定である。

中庭委員長 農業だけで生計を立てている方はいるのか。

- 渡邊（雅）委員 ほぼいない。
- 中庭委員長 自分の畠で収穫した野菜を販売している農家はどれほどか。
- 渡邊（雅）委員 認定農業者は30人未満である。
- 益田委員 自分は野菜を育てていて、自分の店でも使っている。必要な利益を確保するため、付加価値を付け、高い価格で販売することが産業振興に繋がると考えた。認定農家が農家レストランをすると面白いと思う。小金井市のライフスタイルを提案することも意義がある。
- 個人店が挑戦できるテナントが少ない。また閉店する商店が増え、マンションにて替えられるため、商店会の連続性を保てない状況である。そのため、商店会に対する支援や都市計画上の措置などが必要だと考える。ただ、事業者のやる気に対応した支援が望ましい。
- 商業・工業基礎調査における「市内外で買い物・飲食をする理由」の質的な理由で市内が市外を上回っている項目は、商店街に対する意見があることが伺える。商店街のようにいつも同じ店員が接客をすることは、安心安全なまちづくりにもつながると思う。また、利便性や価格に関する項目は、ほとんどの項目で市内が市外を上回っており、商店街振興に力を入れることへの根拠になると感じた。
- 今井委員 小金井市として小規模の店舗を大切にするという方向性があるのであれば、店側も安心感をもてる。ぜひ小金井市としての方向性を掲げていただきたい。
- 空き店舗が多いと記載されているが、空き店舗が多い印象はない。一方で、開店休業状態の店が多いと感じる。
- 駐輪場のニーズが高いなら商店街への駐輪場の整備は早々に実施するべきだと思う。
- あと、小金井市商店街活性化に関する条例では、事業者の責務として商店街への協力を求めているが、前向きな内容にしていただき、加入を促すようお願いしたい。
- 中庭委員長 商店街の個店は、多様性がないと成立しない一方で、収益を得ようとすると多様性がなくなる。地方では、商店会でまちづくり会社を設立し、業態の誘導をする事例もある。
- 益田委員 品ぞろえを豊富にすることは難しいと考えており、個人店が生き残るための方法は、専門性に特化することだと思う。戦略をもった業者の持続可能性を高める支援を行うべきであり、経営難を救済することを目的とした支援は必要がないのではないかと思う。
- 渡邊（恭）委員 事業を存続させるためには、事業の範囲を広げることが有効である。例えば、結核の検査器具の一部になる製品をジンバブエに輸出しており、将来的にはアフリカに工場を建設することを見据えて、現地の方が工場見学に来た。
- また、商工会と東京工学院と連携し、ダンボールのおもちゃを制作したこともある。蛇の目ミシン工業（株）が撤退したとの工業の方向性を検討していただきたい。
- 鴨下委員 産業分類について、2次産業の増減に関する方針がないので現状のような状態になる。工業を増やす必要があれば、用途地域を変更する必要があり、蛇の目ミシ

	<p>ン工業（株）に代わって核になる事業者を誘致する必要がある。</p> <p>一方で、地区計画によってマンションの1・2階に事務所が入居している事例もある。</p> <p>商店街を残す方向性にするならば、補助金制度を整える必要がある。</p> <p>大学との連携については、学生が卒業してしまうので先生の頑張り次第になってしまう。</p> <p>市役所の建設に伴って、同じ敷地に映画館や図書館などの人が集まる仕掛けがあると面白いと思う。</p>
佐藤委員	<p>小金井市に住む理由として、車を利用せずに生活できることが挙げられる。一方で、駐輪場や公衆トイレがあってほしいし、駅前に図書館などの公共施設があってよい。市内に数か所、商業的な拠点があるとなおよい。</p> <p>小金井市は昼夜間人口比率が低い。昼間に若い人がおらず、増えてもらいたいと思う。そのためには産業が必要である。たとえばソフトウェアやアニメ、人工知能を活かしたようなビジネスといった新しい産業が興ると良いと思う。</p> <p>小金井市は田舎と都会の間であるため、小規模なBtoBが起こしやすい街ではないかと思うし、そうあってほしい。</p> <p>また、樹木畠が多く、みどりに癒されるので、樹木畠を維持できるような仕組みがあると良いと思う。小金井市ならではの農業が継続され小金井市の価値が高まるとよいと思う。</p>
中根委員	<p>市外に住む人が、わざわざ小金井市に足を運ぶ魅力が少ないと感じる。江戸東京たてもの園は来場者が多く、参加してみるとイベントの集客力はあると感じたが開催の発信が少ないように感じた。市外からの小金井公園への来訪者が少ないとがもったいなく感じるので、何かに活用できると良いと思う。</p>
山口委員	<p>人口維持のために、高校生がシビックプライドを持つことを促すことが有効だと思う。市内高校との連携を行い、地域参画に関する授業を実施し、学生に小金井市の良さを実感してもらうことも良いと思う。</p> <p>また、定年を迎えた方々の受け皿として、小金井市民塾や小金井市民大学などの仕組みが考えられる。地域に貢献したいものの活動の場がないアクティブシニアと地域をつなぐ仕組みがあると良いと思う。</p>
西川副委員長	<p>産業振興の幅が広いので、計画にどこまで盛り込むのかが気になった。小金井市のライフスタイルを考えることも重要な観点であると思う。</p> <p>人口推計について、外国人の居住者や労働者の中でも意識できると良いと考える。小金井市外で生まれたお金をどのように市内に取り込むのかを、施策と関連づけながら議論することが大事であると感じた。</p>
中庭委員長 事務局	<p>事務局として、どのように委員会を進めたいのか、意見表明をしていただきたい。市としての方向性を掲げてほしいということかと思うが、委員会の意見のなかで産業振興プランの方向性を掲げたい。昔から小金井で商いをしている方々が外から人を呼び込んできたなかで生業が発展してきたと思うので、元々小金井市にいる方々や個店を経営する方々への支援を高めながらまちづくりを進めたい。</p>

中庭委員長	「いかに稼ぐか」を考えると、土地価格の高さが問題になる。例えば大田は、土地価格の高さや騒音問題により事業継承が上手く進まないケースがあると聞いている。土地資産の高騰が商業者にとってハードルとなる中で、稼げなければならない。稼ぐためには、市外からの顧客を獲得するか、あるいは専門化して高値で販売するしかない。そのためにどのような取組みを行うかが課題である。行政に対しては、事業者が実施したい取組に対する支援を依頼する必要がある。
渡邊（恭）委員	建物の高さ制限を撤廃した場合、小金井市の価値はどうなるか。
中庭委員長	ベッドタウン化に拍車がかかり、時間がたてば多摩ニュータウンのようになることが考えられる。
鴨下委員	建物の高さ制限をした方が良いのではないか。
中庭委員長	「コンパクトでウォーカブルなまち」は国が進めているキーワードである。 交通の便の密度が高くないと、商圏が広がらない。
今井委員	駐輪場の整備について、ある程度の徒歩圏内であれば、駅のすぐそばでなくとも良いと思う。
佐藤委員	小金井市は地形もあるのか電動自転車の比率が高く、電動自転車は駐輪場の幅をとる。地下に降りりずとも駐輪できる場所が増えてほしい。
鴨下委員	駐輪場の数は不足しているように感じるので、駅前のロータリーや駅前広場があると便利だと思う。特に、南側は坂が多いが、採算が合わないことからバスの廃止が考えられ、そこに住む人が取り残されてしまう懸念がある。
今井委員	条件が良い場所に通勤利用がメインとなる駐輪場を整備することに違和感がある。
中庭委員長	それは、税金を納めているので公共サービスという観点では自然なことであると思う。いかに移動の便を整備するかは議論が必要で重要である。
鴨下委員	披露宴や会議の場所として、ホテルが必要だと思う。
西川副委員長	23区内のホテル代が高騰している。外国人の来街も含め、サービス業の必要性があると思う。アクセスが悪くても店舗の魅力を高めることでカバーすることもできると考えられる。
今井委員	商店街の駐輪場は整備されているのか。
西川副委員長	整備されていない。
渡邊（恭）委員	駅前の駐輪場よりも、商店街を回遊するのに便利な駐輪場を整備することの方が大切であるように思う。
佐藤委員	高齢者のことを考えると、買い物難民の人口が多いと思うので、商店会で配達サービスをすることも良いと思う。
渡邊（雅）委員	となりまちプロジェクトでコーヒーカップ当てクイズを実施した時に、市に喫茶店が少ないことが話題に上がり、ビジネスチャンスを逃しているように感じた。
山口委員	喫茶店は、開業しても閉店しているのが現状である。
渡邊（雅）委員	スイーツで成功しているお店もあるが、面として広がっていない。
事務局	農地活用の制限が厳しい。日常づかいで緩和できることはあるか。
	海外企業参入による地方の農地活用方法の影響から都市農業にも制限がかかっている状態なので、活用していくには、国や都に要望をしていくこととなる。

中庭委員長 移動販売を仲間で実施するなど、知恵を出す必要がある。

(3) 市民アンケートの結果（速報）について

事務局が資料2を用いて、市民アンケート結果の説明を行った。

今井委員 回収率が13.2%のアンケートはあてになるのか。

事務局 小金井市の人口から見ると200人程度の回答があれば、アンケートとし成立するといえる。

中庭委員長 稼ぐためには誰をお客さんにしてまちづくりをするのか考えることが大切なので、この中からビジネスチャンスやニーズを見つけたい。

鴨下委員 新しくお店を出したい人はいるので、不足していることを掘り出すことがこの会議の目的だと思う。音楽やアートでまちを盛り上げたい若者もいるので、アンケートの結果ばかりではなく、その人達とマッチングする必要がある。

3. その他

事務局より次回委員会の開催予定を伝えた。

- ・日時：9月26日（金）午後2時30分～午後4時30分
- ・場所：東小金井駅開設記念会館・マロンホール2階A・B会議室

4. 閉会（午後8時00分）